Ｒ６年６月定例会一般質問（松井邦人）

令和６年６月定例会にあたり、富山市議会自由民主党より一般質問を行います。

始めに、本市における医薬品の生産額について伺います。

300 年以上の歴史と伝統を有する富山のくすりは、商いの信用・くすりの信用・人の信用を３本柱とした先用後利という富山売薬の販売方法によって「くすりと言えば富山、富山と言えばくすり」と全国的に有名になり、現在に至るまで本市における産業の発展の礎になっています。

県内には新薬開発やジェネリック、市販薬、配置薬などの多様な医薬品製造業が集積し、中でも内服固形剤や特殊製剤について非常に高い製造技術を有しています。

また、それに伴う包装容器やパッケージ、印刷などの周辺産業も充実しています。

医薬品の生産額は平成 27 年には 6,603 億円で全国１位となり、令和４年は 6,078 億円で全国５位と、全国有数の薬都として知られています。

しかし令和２年以降、県内の製薬会社に不正製造による行政処分が科される事案が相次いで発生し、これまで築き上げてきた「薬都とやま」のブランドイメージは失墜しました。

現在、製薬会社は消費者の信頼を回復すべく行政と連携しながら業界あげて業務の改善に取り組んでいますが、残念ながら県内の医薬品生産金額は令和元年をピークに減少傾向にあります。

本市における医薬品の生産額はどのように推移しているのかお聞かせください。

次に、本市における薬剤師の確保について伺います。

少子高齢化のさらなる進行や今後人口減少地域が増大することが予想される中で、地域の実情に応じた医薬品提供体制を確保することが求められています。

近年、薬剤師の養成機関は急増し養成者数も増加する一方で、過当競争が起こり薬学部の充足率の著しい低下と国家試験合格率の低下を引き起こしています。

人口減少に伴う需要の低下によって 2030 年代には薬剤師は余ると予測されていますが、現状においてはまだ薬剤師不足の地域は多く、特に病院勤務の薬剤師は全都道府県で不足しており、その偏在が問題視されています。

令和３年６月に公開された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ」では、薬剤師の従事先に地域や業態の偏在があり、中でも病院薬剤師の確保が喫緊の課題であると指摘されています。

その最大の要因としてドラッグストアとの給与水準の乖離があると言われており、特に富山県は地域別薬剤師偏在指数が全国ワースト３となっています。

第８次医療計画等に関する検討会においても薬剤師確保の取組みの必要性が説かれ、医療計画作成指針に地域の実情に応じた薬剤師確保策の実施などを新たに規定し、各都道府県には薬剤師確保に係る計画を策定することが求められています。

現時点での地域や業態の偏在状況を鑑みると長期的な視点で偏在解消に取り組む必要があり、令和６年度から始まる第８次医療計画において薬剤師確保計画を策定し、偏在対策に取り組むこととなっています。

また、薬剤師の確保対策としては、積極的な確保が求められる病院や薬局に関する情報の提供、潜在薬剤師の復帰支援、離職の防止対策などの短期的に効果が得られる施策や、

奨学金の貸与制度や薬学部における地域枠・地域出身者枠の設定、地域出身である学生への普及啓発などの効果が得られるまでには時間がかかる長期的な施策も検討されています。

本市の病院事業局においても薬剤師不足が常態化しており、安定した病院運営を行っていく上でも人材確保は重要な課題と考えます。

病院事業局における薬剤師の確保に対する現状と課題をお聞かせください。

また、薬剤師不足の解消に向けた取組みについてお聞かせください。

薬剤師の不足や偏在は、本市の伝統ある基幹産業である製薬会社が持続可能な企業経営を行っていく上でも喫緊の課題です。

本市においてくすり産業の持続的な発展を支えていくためには、薬剤師の人材確保にも取り組む必要があると考えます。

本市にある製薬会社においても薬剤師の人材不足が課題となっていますが、本市における人材確保に向けた取組みについてお聞かせください。

次に、「薬都とやま」としての取組みについて伺います。

本市では 300 年余りの歴史を持つ富山売薬関係の史資料を保存・活用するために、売薬に関する資料 6,000 点以上を収蔵する売薬資料館を設け、常設展示や企画展示などを通じて富山のくすり売りの生活や歴史を発信しています。

売薬資料館には、得意客の名簿などの情報を記した懸場帳や薬草を刻んだ押切、行商人グループの活動場所を日本地図上に示した分布図などが展示され、富山の売薬文化に触れることができる施設となっています。

一方、このような施設は観光客や学習の場としては魅力的であっても、自ら何度も訪れたい施設にはなり難い傾向にあるので、再び訪れてもらうための取組みが求められます。

売薬資料館の入館者数は近年、どのように推移しているのかお聞かせください。

また、リピーター獲得に向け、どのような取組みを行っているのかお聞かせください。

近年、売薬さんの減少や高齢化による廃業の影響で売薬版画や引札、ポスター、薬袋など、くすりの歴史や産業発展の礎を知ることができる売薬関連資料の散逸が危惧されています。

本市では「薬都とやま」の歴史や伝統を後世に伝えるために、製薬企業や売薬さんが持っていた薬業資料を２年かけて集め「富山のくすり」の歴史と文化、精神を未来へ継承するためのデジタルアーカイブに取り組んでいます。

薬業資料のデジタルアーカイブを進める意義とその活用方法についてお聞かせください。

併せて、本市では観光施設などで「くすりのまち富山」について分かりやすく案内できる人材を育成するために、くすりの語り部事業にも取り組んでいます。

くすりの語り部とは、富山における薬の歴史と現在を語り継ぎ、未来へつなぐ存在として一定の認定基準を定め、本市にある施設や観光などの場面で「薬都とやま」に関する解説や案内ができる人材です。

平成 20 年度から民間団体が人材育成を行っていましたが、くすりの語り部として活動できる人材の確保が困難となり、平成 30 年度からは本市が主体となって担い手の育成に取り組んでいます。

これまで認定されたくすりの語り部の現状と今後どう役立てていくのかお聞かせください。

最後に、「薬都とやま」の信頼回復に向けた取組みについて伺います。

本市では「富山らしさ」を再認識し、まちに対して愛着や誇りを抱くシビックプライドを醸成するために「富山のくすり」の歴史と精神を伝え、富山売薬が本市における産業の発展の礎であることを未来へ継承する必要があるという認識の下、平成20年度に観光振興を目的としたくすり関連施設基本構想を策定しました。

その後、観光や医薬品産業を取り巻く環境が大きく変わり、それらの変化に見合ったものへの修正が求められ、平成30年度に改めて基本構想と基本計画を策定しました。

さらにその後、コロナ禍に見舞われたことや北陸新幹線の敦賀延伸などを機に、これまでの基本的な考え方を踏襲しつつ、アーバンプレイスの３階、４階を新たな候補地として選定し直しています。

もっとも、この場所を観光客などに周知して駅から気軽に訪れてもらうためには、ＰＲ方法や動線の確保など、整備段階から十分な検討を重ねる必要があると考えます。

本市には売薬資料館をはじめ、薬種商の館「金岡邸」や池田屋安兵衛商店などがあり、「くすりのまち富山」の情報発信をそれぞれで行っています。

さらに、県内には富山県薬事総合研究開発センターという薬事に関する研究開発や試験、並びに技術指導などを行い、医薬品などの品質、有効性及び安全性の確保を図り、県内の薬業振興に役立っている全国で唯一の薬事専門の公設試験研究機関もあります。

さらには、富山北部高校に県立高校の課程としては極めて特色のある「くすり・バイオ科」を設置し、くすりの富山を支えるスペシャリストの育成を目指しています。

「薬都とやま」として情報発信力を高めるには、点在するくすり関連施設と新しく計画する施設を連携させ、効果的に活用していくことが必要と考えます。

新しく計画するくすり関連施設と現在点在しているくすり関連施設とをどのように連携させていくのか見解をお聞かせください。

本市だけでなく全国には薬をテーマにした施設があり、江戸時代から薬問屋が軒を連ねていた日本橋に「くすりミュージアム」、同じく道修町には「田辺三菱製薬史料館」があります。

「くすりミュージアム」は一般的な資料館と異なり歴史的な資料や収集物の展示はなく、新薬開発や薬剤の働きについて学べる体験に特化した施設で、「田辺三菱製薬史料館」も同じように体のしくみや薬の効き方を学ぶことができる施設となっています。

これらの施設は薬の歴史と精神を伝え、意外と知られていない薬について楽しく学びながら身近なものと体感することができ、薬の未来を感じさせてくれます。

また、施設を運営している方からは、訪日外国人観光客や日本人観光客は歴史的資料やポスターなどの収集物に関心を寄せるが、児童生徒をはじめとする若い世代は新薬開発や薬に関する体感型の展示に興味を掻き立てられる傾向があるという指摘もありました。

製薬企業による「くすりの富山」としての信頼を失墜させた事案や、本市の基幹産業を支える医薬品業界の薬剤師不足などの影響もあり「薬都とやま」の未来を担う人材の確保は大きな課題で、その対策が求められています。

長期的な視点で「薬都とやま」の信頼を回復し、さらなる発展を期するには、薬を身近な存在として知ってもらい将来的に医薬品業界にも興味を持ってもらうことが必要です。

そのためにも新しく計画されるくすり関連施設には、未来の「薬都とやま」を担ってく

れる人材の確保につなげる機能を持たせた施設にしていくべきと考えます。

新しく計画するくすり関連施設の役割とその施設に込められた想いについてお聞かせください。

オーバードホール中ホールやブールバールの再整備などにより、新たな賑わいが創出されている駅北地区において、くすり関連施設も本市を象徴する施設の一つとなることと、「薬都とやま」の信頼を取り戻すことにつながることを願って、質問を終わります。

（４，１３９文字）